

PRAEVIDENTIA DAILY (10月9日)

昨日までの世界：議事要旨を受けて早期利上げ期待後退

昨日は、9月FOMC議事要旨を受けて米早期利上げ開始期待が後退し、米中長期債利回りが大きく低下、米株価が反発する中でドルが対主要通貨で下落した。議事要旨では、市場のFF金利見通しが大半のFOMC参加者の想定より低く見積もられているかもしれない、という部分があり、ドル買いに繋がりがかねなかったが、市場はむしろ、ユーロ圏や日本、中国など海外景気減速の米経済への悪影響や、最近のドル高が物価上昇を抑制し、2%の物価目標達成が遅れるリスクが指摘された点に注目し、ハト派的な内容だったと捉え、ドル売りとなった。ドル/円相場は、東京時間や欧州時間には107円台へ突っ込む局面がみられた後、議事要旨発表前にはポジション調整からドルが買い戻され、108円台後半まで反発していたが、議事要旨を受けて108円台前半へ反落した。ユーロ、ポンド、豪ドル、NZドルなど他の主要通貨の対米ドル相場も概ね同様の動きとなった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.1	-0.05	-0.06	-0.01	-0.02	-0.03	-0.01	+1.7	-1.2	-1.8	-0.8
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.5	+0.06	-0.00	-0.06	+0.03	-0.00	-0.03	-0.9	+1.7	-0.8	-0.02
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.5	+0.05	-0.01	-0.06	+0.01	-0.03	-0.03	-0.2	+1.7		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.3	+0.02	-0.04	-0.06	-0.01	-0.04	-0.03	+1.7	#DIV/0!	-0.9	
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.9	+0.04	-0.02	-0.06	+0.03	+0.00	-0.03	+1.7	#DIV/0!	-0.9	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.6	-0.03	-0.06	-0.03	-0.02	-0.03	-0.02	+1.7	-1.8	-0.9	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。  
(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：豪ドルも雇用統計に翻弄

きょうの注目通貨：AUD↑

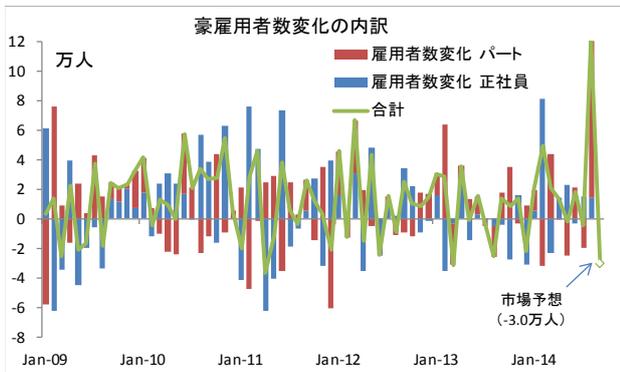
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦8月機械受注・前月比	8:50	+3.5%	+0.9%	
豪9月雇用者数	10:30	+12.1万人	-3.0万人	
同失業率		6.1%	6.2%	
英BoE金融政策決定・政策金利	20:00	0.50%	0.50%	
米新規失業保険申請件数	21:30	28.7万人	29.4万人	
Bullard セントルイス連銀総裁発言	22:45			タカ派、来年は投票権なし
Fischer・FRB副議長発言	24:00			ややハト派、常に投票権あり
Tarullo・FRB理事発言(ECB関連)	2:10			中立、常に投票権あり
Lacker リッチモンド連銀総裁発言	2:15			タカ派、来年は投票権あり
Williams サンフランシスコ連銀総裁発言	4:40			ややハト、来年は投票権あり
G20財務相・中銀総裁会合				10日まで

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は豪雇用統計が注目される。前月の雇用者数の増加が+12.1万人と史上最高となっていたが、非常に弱かった7月分からの反動に加えて、7月に行われた統計の標本入れ替えの影響などがあり異常値とみられ、今回は-3.0万人と反動減がみられる予想となっている(下図を参照)。失業率も同様に、7月に6.4%へ急上昇した後、前月に6.1%へ反落したが、今回は再び6.2%へ増加する予想となっている。このままであれば、前月から

の悪化は単純に豪ドル安要因だったが、昨日豪統計局が大きく振れた7-8月分を改定すると発表したため、逆に（現在の予想対比で）上振れリスクが出てきた。豪統計局は、今年7-9月には通常みられる季節性がなかったため、季節調整を実施したことで歪みが生じたことを示唆している。季節調整前の雇用者数は7月が-1.2万人、8月が+3.2万人、失業率は7、8月共に6.0%だったそうで、9月分は8月分に近い数字だった可能性が高い。このため、豪雇用統計発表を巡っては、豪ドル買いとなるリスクに注意したい。なお、トレンドでみて、豪政策金利と連動性が高い失業率の高水準横ばい傾向に変化はないとみられ、今回の雇用統計を受けて目先のRBAの金融政策スタンスが変化するとは考えづらい。

ドル/円に関しては本日はFed高官発言が多いが、中ではWilliams サンフランシスコ連銀総裁発言に注目している。Fedが来年利上げを決定するに当たり重要な点は、総票数10票のうち、Yellen議長を始めとするFRB理事ら5名とFOMC副議長であるDudley・NY連銀総裁を合わせた6名が、どれだけハト派を取り込んでより多くの賛成票を固められるかで、ハト派（Evans シカゴ連銀総裁、Kocherlakota ミネアポリス連銀総裁、Lockhart アトランタ連銀総裁、Williams 総裁）のうちではWilliams サンフランシスコ総裁が最初に利上げに賛成し始める可能性が高く、キャストिंगボートを握っているとみられる。サンフランシスコ連銀と言えば、9月8日に同連銀所属のエコノミストらが、市場がFRBの予想よりも低目のFF金利しか予想していないとする論文を発表してドル買い要因となったのが記憶に新しいが、Williams 総裁自体は少なくとも8月22日時点では、来年半ばまでは利上げ開始の公算は小さいとしていた。今回もそうしたハト派姿勢が確認できれば、ドル安材料となりそうだ。ドル/円は107円台へ続落する可能性が高いとみているが、昨日の議事要旨発表後の下落でも108円を割っておらず、もし本日ハト派的な発言が出て108円丁度近辺から大きく下落しない場合には、108-110円でレンジ相場に入るリスクもある。



**ディスクレイマー**

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。  
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。  
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641